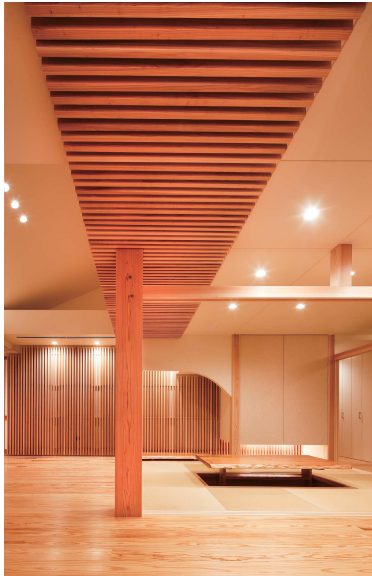
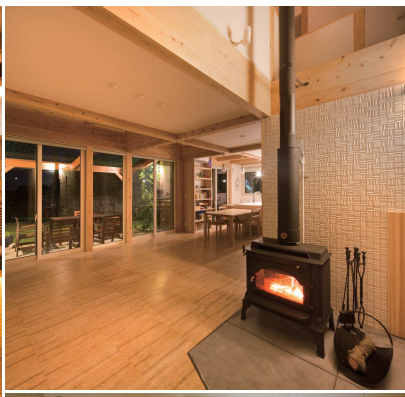


かごしま
木造住宅
コンテスト
2015



目次

02	「かごしま木造住宅コンテスト 2015」 事例集の発行にあたって	
03	審査講評	
04	知事賞	上谷口の家(鹿児島市)
08	会長賞	薩摩川内の家(薩摩川内市)
11	入選	喜入の家(鹿児島市)
13	入選	吉野里山山荘(鹿児島市)
15	入選	始良の家(始良市)
17	入選	吉野の家(鹿児島市)
19	入選	吹き抜けとコートを囲む回遊性のあるお家(鹿児島市)

募集要領

審査委員	委員長	古川 恵子	(鹿児島女子短期大学教授)
	副委員長	柴田 晃宏	(鹿児島大学大学院理工学研究科(工学系)建築学専攻准教授)
	委員	東條 正博	(一般社団法人 鹿児島県建築士事務所協会会長)
	委員	亀澤 絡	(一般社団法人 鹿児島県木材協会連合会専務理事)
	委員	落司 ひとみ	(公益社団法人 鹿児島県建築士会女性部会長)
	委員	浦口 恭直	(鹿児島県土木部建築技監)
	委員	守真 和弘	(鹿児島県木造住宅推進協議会会長)

募集対象 (全てに該当すること)

- 1.鹿児島県内にある住宅で、県内の住宅事業者が施工した軸組工法による木造住宅
(混構造、併用住宅も可。)
- 2.木材の使用量が、次の①または②のいずれかを満たす住宅
 - ①かごしま木の家(ア)及び(イ)の両方を満たす住宅
 - (ア)かごしま材の使用量が10㎡以上
 - (イ)かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上
 - ②認証かごしま材の家(ア)～(エ)のいずれか1つ以上を満たす住宅
 - (ア)柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上
 - (イ)柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上
 - (ウ)造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上
 - (エ)上記(ア)～(イ)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(ウ)における同材の実使用比の数値の合計が1以上
- 3.過去3年間(平成24年9月～27年8月)に完成・引き渡しされた新築住宅
- 4.過去の「かごしま木造住宅コンテスト」に未応募のもの

募集資格 施主・設計者・施工者・大工(棟梁)の4者の連名で応募。(連絡窓口の方を1名選定)

募集方法 以下の書類をそろえて募集先へ持参もしくは郵送

- 1.応募用紙
- 2.施主の要望と反映の方法、コンセプト
- 3.設計・施工のポイント、住宅のアピール等
- 4.配置図、平面図(兼ねても可)
- 5.写真(外観4枚以下・内観8枚以下)
- 6.かごしま材または認証かごしま材の出荷証明書の写し
- 7.その他(アピールに必要な図面等)

募集締切 平成27年9月11日

主催 鹿児島県木造住宅推進協議会

後援 鹿児島県

「かごしま木造住宅コンテスト 2015」 事例集の発行にあたって

「かごしま木造住宅コンテスト」は、鹿児島島の自然や歴史、風土、文化に根ざした木造住宅の振興を図るため、また県民の皆様にも木造住宅の良さを広く知っていただくために2001年から2年ごとに実施しており、今回で第8回目となりました。

木造住宅の中でもとりわけ地域で育った木を活用した住宅は、森林保全や地球温暖化の防止などの環境面だけでなく地域産業の振興の面においても波及効果が大きいことから、国や県においては地域材を活用した木造住宅の普及促進に関する様々な施策が実施されています。

当協議会でも、県が提唱する「地材地建（地域で生産された木材・建材を使って、地域の大工・工務店等が住宅等を建設すること）」を推進しており、「かごしま材または認証かごしま材を一定量以上使用していること」をコンテストの応募条件としています。

この作品集に掲載されている入賞作品は、鹿児島島で育った木の特性を活かし、住まい手の多様なニーズやライフスタイル、周辺環境に対しさまざまな配慮がなされ、また、鹿児島島で育った木をふんだんに使い、心地よい住空間をつくるために建築主、設計者、施工者、大工さん等の関係者が協働し、工夫しながら完成された優れた住宅です。この作品集が県民の皆様の住まいづくりの一助となれば幸いです。

ご応募いただいた皆様方のご努力に深く敬意を表しますとともに、ご多忙のなか審議いただきました古川恵子委員長はじめ審査委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

今後とも、人にも地球環境にもやさしい快適な木の住まいづくりの促進に取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

鹿児島県木造住宅推進協議会
会長 守真 和弘

鹿児島県木造住宅推進協議会とは

鹿児島県の木造住宅の振興を促進するため、関係民間団体や関係行政機関などが結集して、従来の個人的な活動の範囲を超えて木造住宅の振興の諸活動を広範かつ長期的に実施していくことを目的として設立された協議会です。

協議会では、大工・工務店などの経営の近代化及び技術の向上、住宅建築の担い手の育成と定着・地位向上、在来木造住宅に対する県民の意識の向上などを通じて木材を中心とする地域住宅関連産業の活性化や地域に適した良質な木造住宅の建設推進等の活動をおこなっています。

鹿児島県木造住宅推進協議会会員

(公社) 鹿児島県建築士会
(一社) 鹿児島県建築協会
(一社) 鹿児島県建築士事務所協会
鹿児島建築工友会
(一社) 鹿児島県林材協会連合会
鹿児島県木材協同組合連合会
鹿児島県森林組合連合会
鹿児島県プレカット協議会
かごしま地材地建グループ連絡協議会
鹿児島県町村会
鹿児島県
(公財) 鹿児島県住宅・建築総合センター

(平成 28 年 3 月現在)

審査講評

「かごしま木造住宅コンテスト」は、鹿児島県の自然や歴史、風土、文化に根ざした木造住宅の顕彰を目的に平成13年に始められました。今回は15年目の第8回となります。

「鹿児島県産材の良さが実感でき、省エネや長寿命化を図り、子どもや高齢者が安心して暮らせ、周囲の街並みなどの景観に配慮した住まい」を募集した結果、応募数は16点と前回より減少しましたが、質的な面では、これまでと変わらない内容でした。

施主、設計者、施工者、大工（棟梁）の4者が一体となって、より良い住宅づくりを目指された結果を7人の審査委員で審査しました。審査は一次審査（書類審査）と二次審査（現地審査）の2段階で行いました。一次審査では優秀な7点を選び、その中からさらに知事賞・会長賞候補となる二次審査の対象5点を選定しました。一次審査は審査委員の投票と討議によって決定し、二次審査では現地において提出書類以外の詳細を見、体感し、施主・設計者・施工者等の説明を聞き、一次審査と同様の方法で知事賞・会長賞を選定しました。

知事賞に選ばれた「**上谷口の家**」は、日当たり・通風がよく、施主手作りの竹垣の向こうには茶畑が広がるという恵まれた環境を最大限に活かし、八寸の大黒柱を始め、かごしま材をふんだんに使用した平屋建で、長期優良住宅認定も取得している住宅です。鹿児島県の伝統的な住まいに見られる、近隣の人とのつきあいの場でもある回り縁は、野菜・花畑をより近いものを感じさせ、風通しが良い四方に開放的な間取りは、自然と共生する住宅として、一次審査、二次審査とも高い評価を得ました。また、母親が施主をおんぶして植えたヒノキを柱や床に使うなど、家族の深い思いのある住宅となっています。

会長賞に選ばれた「**薩摩川内の家**」は、南北に抜ける開放的な公的空間と、片方にまとめた私的空間で構成されるシンプルで個性的なプランで、一般的な住宅といえるか評価の分かれるところです。しかし、50代の夫婦二人暮らしの世代に、伝統的な軸組とは異なる木造住宅のあり方を提案し、今後ますます必要とされる地域とのつながりを考えた住宅であることが高く評価されました。さらに多くの木材を使った新しい提案を今後期待します。

入選の5点も優れたものでした。鹿児島市の「**吉野里山山荘**」は、施主が設計・施工に携わり、桜島を望む吹き抜け空間や、木漏れ日を楽しむ大きな窓のあるキッチンが特徴の住宅です。構造材をシンプルに使い、明るく開放的な住宅であることが評価されました。外壁材や床仕上げ、コールドドラフトに関するいくつかの意見が出ました。始良市の「**始良の家**」は、板倉造りにして断熱材を使わず、ローコストという意欲的な住宅です。60代の夫婦がリタイア後に建てた住宅で、今後の木造住宅への提案の一つということから評価されました。板倉造りを広める効果が期待できそうです。但し、玄関周りのデザインについてはいくつかの意見が出ました。鹿児島市の「**吹き抜けとコートを囲む回遊性のあるお家**」は、建設費が高いとは言え、都市住宅としてプランを工夫していることと、かごしま材がふんだんに使用されていることが評価されました。高齢者や乳幼児への配慮について意見が出ました。また、鹿児島市の「**喜入の家**」は、家族がお互いの気配を感じられる、のびやかな空間となっていることが評価されました。玄関アプローチの板壁とリビング外部のデッキのあり方について意見が出ました。「**吉野の家**」は、格子を使って和を表現しながら、シンプルでモダンな感じが出ていることが評価されました。アピールポイントを加えてほしかったという意見がありました。

一般的に設計は住宅に始まり住宅に終わると言われほど、住宅設計はむずかしく、奥が深いと考えられています。今回のコンテストの応募作品は、施主、設計者、施工者、大工（棟梁）の息のあった連携のもと、テーマに沿った、かごしま材を多く使用した木造住宅の魅力伝える、見応えのあるものでした。但し、施主の要望をどのように反映したのか、計画・建築のコンセプトやアピールポイントは何かを示されていない提出書類がありました。それらがあって初めて審査委員の更なる理解につながります。また、コンテストの応募要領は、公平な審査を目指して示されるものですが、残念ながら守られていないものがありました。

最後に、ご応募いただきました方々の木造住宅への取り組みに敬意を表しますとともに、今後ともかごしまの木造住宅の発展にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

上谷口の家

鹿児島市
設計 / 株式会社 建築工房 匠
施工 / 株式会社 建築工房 匠
棟梁 / 雪丸 浩好

知事賞



自然素材に包まれた、風格漂う木の住まい

天井の無い空間づくりにより、開放感と木の魅力にあふれる住環境が実現



自然豊かな風景に馴染む縁側

建主の「55年間この地で育てた杉をふんだんに使って、自然の風を感じる家づくりをしてほしい」という願いから始まった『上谷口の家』の家づくり。無垢の木を構造材だけでなく内装材としても多用し、木の持つ力強さと爽やかな香りに包まれた住空間となりました。建設地の風を読み取り、通風に配慮した設計を行う事で実現した風通しの良い家には、土や和紙・漆喰といった自然素材も積極的に使われており、快適性が高く、自然と寄添って生活できる空間が広がっています。

開放的で心地よく 明るく元気になる「集いの家」

自然を大切にした昔ながらの家づくりを望まれていた建主。「思いが結実した家。朝霞にかすむ茶畑が美しく、朝夕には心地よい風が家の中を抜けていきます」と、大満足の木の家づくりだったご様子。入居後も、夏場でもエアコンは風の無かった一日だけしか使用していないとのこと。建主曰く「過ごしやすい住環境のおかげで、近くに住む子や孫、母や親せきの多くが集まってくれる」そうでまさに「集いの家」となっているようです。快適な住環境を支えるのは、内装にふんだんに使われている木材に他なりません。もともと建設地にあった杉の木を使うことで、風土に見合った調湿性能を十分に発揮し、土や和紙といった自然素材と相まって、豊かで過ごしやすい住環境を創出しています。





匠の技が光る美しい障子▶

▼畳と木の調和が心地よい和室



美しい木目でお客様を出迎える玄関ホール

受賞の
コメント



設計 / 株式会社 建築工房 匠
福迫 健さん

お茶畑の中に建つ緑豊かな環境に調和するように、外観は昔ながらの母屋と納屋を併せ持つ二ツ家をイメージしました。両親が植えて55年間育てた杉・檜を製材・乾燥させて、柱梁や内装材に使用し、他にも100%かごしま材を活用しました。自然の採光と通風を存分に活かし、土壁の蓄熱効果など断熱に配慮した家づくりを行う事で、昼間は照明を必要とせず、夏はエアコン無し、冬も短い暖房稼働で全室が暖かくなる、かごしま型の省エネ住宅です。自然と農業を楽しみながら、長期に継承してもらえらる認定長期優良住宅が完成しました。

サッシ外部に設けたスダレ掛け。
外観のアクセントにもなっています▶

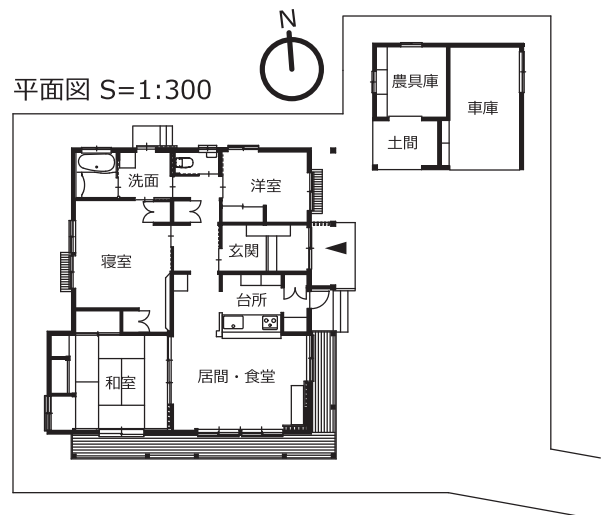


▼二ツ家をイメージした建物配置。
周囲に広がる茶畑に馴染む広がりのある外観



DATA

平屋建て
平成 27 年 8 月完成
敷地面積：410.01 m²
建築面積：136.50 m²
延床面積：114.40 m²



募集条件への適合状況				
かごしま木の家の基準	認証かごしま材の家の基準			
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	-	(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上	-
	(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	○	(4) 上記(1)(2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上	-

薩摩川内の家

薩摩川内市

設計 / アカツキ建築設計(株)

施工 / 有限会社 L-ion

棟梁 / 高橋 誠二

会長賞

愛着ある家具と絶妙に調和する木の空間



染織や料理に熱心な奥様と、家庭菜園や自転車が趣味の旦那様。そんな50代ご夫婦の新たな生活の場、そして活動の場として建てられた『薩摩川内の家』。三角屋根にトンネル状の箱が挿入されたようなユニークな外観の中身は、長年使い続けてきた家具と絶妙に調和した、くつろぎの木の空間となっています。奥様の好きなチャコールグレーに染色した合板と、肌色の月桃紙の壁紙が、より一層豊かな空間を引き立てます。



寝室はハイサイドライトでプライバシーを確保



趣味活動の幅を広げるアプローチの洗い場

風が抜け、視線も抜ける

南の庭、食事や井戸端会議を楽しむテラス、そしてリビングから北側の庭へと風と視線が抜ける間取りとなっています。快適で開放感のある木の空間で、お二人がより一層趣味を楽しみ、日々の生活を満喫できる住空間が形成されています。



心静かに過ごせる、趣きのある和室



ロフトから開放感のあるリビングを望む

受賞の
コメント

機能や性能も勿論大切なことですが、そんなことよりもっと大切なことが建築にはあると考えます。言葉で表すことはむずかしいし、ちょっと恥ずかしい気もしますが、温もりとか味わいとか、、、そんな五感で感じる部分です。五感で感じて、その建築を心から好きになってもらいたい。建築なのでやがて朽ち果ててなくなってしまう時も来るでしょう。そんな時まで大切に愛され続ける建築であってほしいと思います。

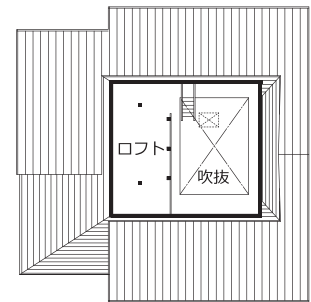


設計 / アカツキ建築設計(株)
二俣 暁徳さん

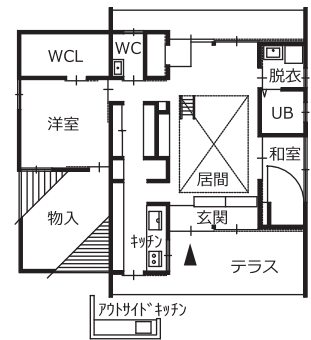
▼三角屋根にトンネル状の箱が挿入されたようなユニークな外観

DATA

2階建て
平成 27 年 4 月完成
敷地面積：349.25 m²
建築面積：122.76 m²
延床面積：110.77 m²



2階平面図 S=1:300



1階平面配置図 S=1:300

募集条件への適合状況

かごしま木の家の基準		認証かごしま木の家の基準			
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	○	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	-	(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上	-
		(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	-	(4) 上記(1)(2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上	-

入選

喜入の家

鹿児島市

設計 / 株式会社 田川組一級建築士事務所

施工 / 株式会社 田川組

棟梁 / 小正 孝治

家族の気配を感じ取れるオープンな住まい

立地条件により、東南方向に今後も建物の建つ可能性のない事から、そこに
通風と眺望を得られるフルオープンの
開口を配置した『喜入の家』。その大
開口に面して広々としたウッドデッキ
を配し、そのデッキを囲うように子供
室と主寝室を設けて、どこにいても家
族の気配を感じられる住まいとなっ
ています。

「季節の移ろいを感じられる風景を十
分に味わうことができる」と建主が語
るように、大きな開口からは光や風と
いった自然の恩恵だけでなく、心を楽
しませる豊かな風景までも取り込むこ
とに成功しています。



引込障子から柔らかな光が室内を照らします



ウッドデッキには各部屋に回遊性を持たせる効果も



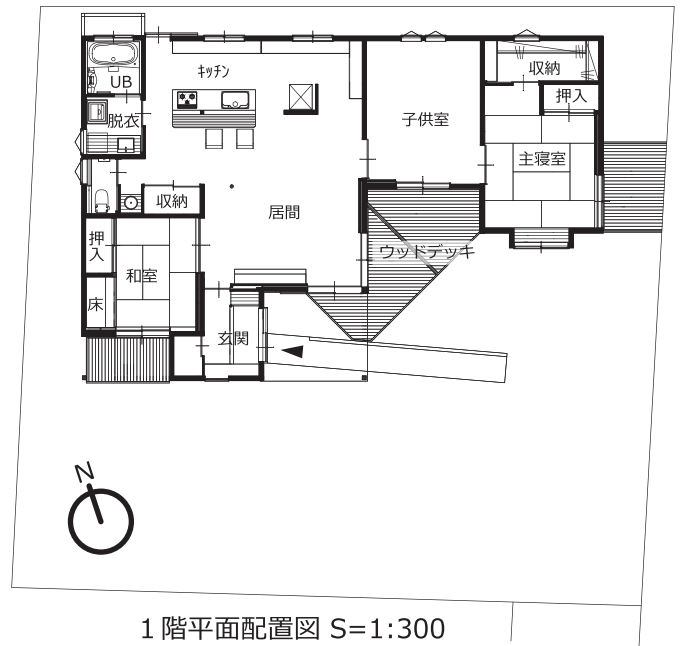
造作家具でキッチンまわりにたっぷり収納を確保

開口部には壁に引き込まれる内障子を設け、複層遮熱ガラスとともに、断熱性能を高めています。内装材には地元の杉を用いた無垢材の床や、珪藻土の塗り壁といった自然素材をふんだんに使い、快適な住環境を実現。「あちこちに工夫がなされていて、どこにいても落ち着ける住まいです」と建主が語るように、居心地の良い木の住まいとなっています。家族を感じながら、そして四季の変化を楽しみながら生活できる、心に優しい住まいです。



DATA

平屋建て
 平成 25 年 12 月完成
 敷地面積：429.82 m²
 建築面積：130.48 m²
 延床面積：116.96 m²



1 階平面配置図 S=1:300

募集条件への適合状況					
かごしま木の家の基準	認証かごしま材の家の基準				
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	○	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	-	(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上	-
		(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	-	(4) 上記(1)(2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上	-

吉野里山山荘

鹿児島市

設計 / ヤマサハウス 株式会社

施工 / ヤマサハウス 株式会社

棟梁 / 隈元 義一

里山で別荘のような暮らしを楽しむ家



「別荘での生活のようなスローライフを楽しみたい」との思いから、敷地選びからこだわって作られた『吉野里山山荘』。後ろの雑木林に溶け込む外観と、周囲の自然を楽しめるように工夫された内部空間により、敷地の雰囲気溶け込んだ豊かな木の住まいが実現しています。森で木を切って薪をつくりストーブの燃料にし、畑を耕して安全な野菜を育てるといった建主の長年の夢を実現させた、森の中の住まいです。



家全体を暖める薪ストーブ



景色も楽しめる2階のスタディコーナー



力強く安心感のある木の構造材。
インテリアの重要なアクセントにもなっています

1階は将来のことを考えて玄関アプローチから完全バリアフリーとなっています。南面する大きな開口部には深い軒を設け、自然風を取り込みながら夏の日差しはカットし、冬は部屋の奥まで日差しを取り込む設計です。まさに、人にも室内環境にも優しい住まいといえます。内部空間は木を大胆に見せるインテリアとなっており、大きな開口越しに見える周囲の自然と見事に調和し、心落ち着く自然との共生空間を創出しています。

DATA

2階建て

平成26年3月完成

敷地面積：545.47㎡

建築面積：71.21㎡

延床面積：117.58㎡



募集条件への適合状況

かごしま木の家の基準		認証かごしま材の家の基準			
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	○	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	-	(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上	-
		(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	-	(4) 上記(1)(2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上	-

入選

始良の家

始良市

設計 / 有限会社 ゆうあいプラン

施工 / 住まいる 玄

棟梁 / 鶴本 正太

断熱材を使わず快適環境を創出



やさしい光と美しい木目に囲まれた、ぬくもりあふれる空間

「自然の気候に任せ、自然素材を活かしたエアコンのいらぬ家」という建主の要望に応えるため、板倉造を応用した『始良の家』。断熱材を使用せずに、厚さ30mmの杉板を床・壁・屋根（野地板）に用い、その外側に通気層を挟む形で外壁杉板と屋根野地板を二重貼りした構造です。「実際に住むと、夏と冬の内外温度差は2～10℃程度で非常に快適。何よりも木材の調湿効果がすごい」と、木の様々な効果に改めて驚きつつ、エアコンを使わず、快適に過ごされています。



職人の手作りキッチン。
使い込むほどに趣きが増します



木の香りに包まれたトイレ空間



2階は大容量の収納空間。格子の手摺で風通しも良好



様々な表情を見せる木の外観



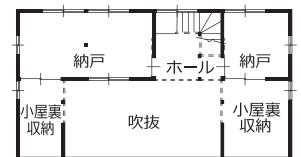
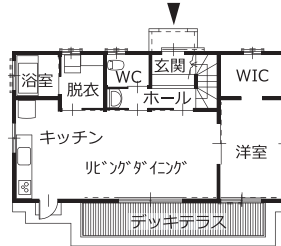
▲オレンジの瓦や木格子・ウッドデッキが外観のアクセントに

DATA

2階建て
平成26年4月完成
敷地面積：330.49㎡
建築面積：71.21㎡
延床面積：94.40㎡

1階はもちろん、2階部分も効果的に東西南北に窓が配置され、季節ごとにあらゆる方向から風を取り込める設計です。内装・外装共に木材を多用した自然素材の住まいとなっており、その風合いや色合いが生活と共に穏やかに変化していく様は、まさに家が生きている証です。

豊かな木の香りで癒しを感じ、やわらかい木肌にぬくもりを感じる。そして高い調湿作用と断熱性能で快適に過ごす。そんな木の恩恵を十分に感じることのできる住まいです。



2階平面図 S=1:300



1階平面配置図 S=1:300

募集条件への適合状況

かごしま木の家の基準		認証かごしま材の家の基準	
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	○	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上
		(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	(4) 上記(1)(2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上

入選

吉野の家

鹿児島市

設計 / ヤマサハウス 株式会社

施工 / ヤマサハウス 株式会社

棟梁 / 脇元 一盛

木格子を多用した美しい木の空間

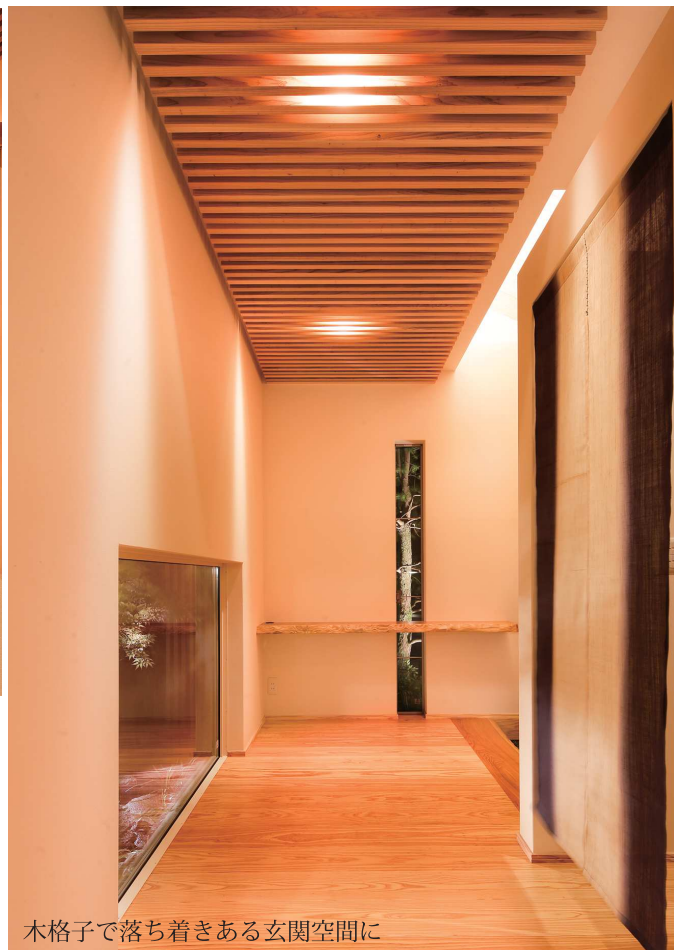
設計者が「木々達」と称する小径材を利用した木格子が美しい『吉野の家』。木格子を用いることで視覚的に連続性を持たせ、豊かな木の空間を創出しています。

また、木格子による立体的な木の面積増加により、木の持つ芳香作用や調湿作用をより効果的に発揮させています。木の持つ良さを五感で感じる、快適で健康的な美しい木の空間です。



庭園と調和するスタイリッシュな和の空間

近年、加速度的に進む住宅の高性能化の流れの中で、木という自然素材の良さを改めて見つめ直し、昔から伝わる技術や家づくりへの想いを形にした『吉野の家』。その象徴ともいえる木格子が、現代の生活スタイルやデザインに見事に調和し、落ち着きがありスタイリッシュな和の空間を演出しています。



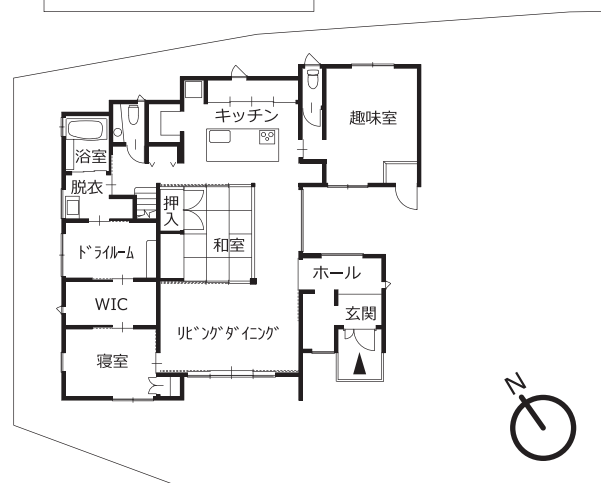
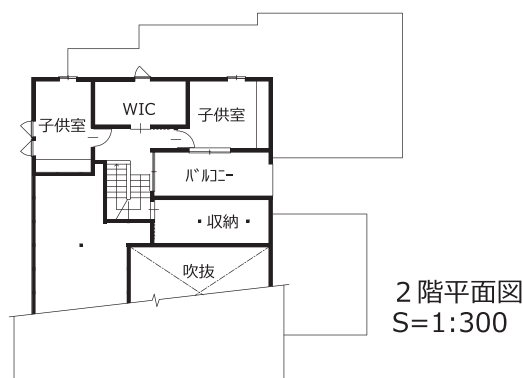
木格子で落ち着きある玄関空間に



▲庭の木々と調和する趣きある外観

DATA

2階建て
平成27年3月完成
敷地面積：423.10㎡
建築面積：151.62㎡
延床面積：180.49㎡



1階平面配置図 S=1:300

募集条件への適合状況

かごしま木の家の基準		認証かごしま材の家の基準			
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	○	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	-	(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上	○
		(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	○	(4) 上記(1)(2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上	-

入選

吹き抜けとコートを囲む 回遊性のあるお家

鹿児島市

設計 / 株式会社 ベルハウジング

施工 / 株式会社 ベルハウジング

棟梁 / 迫 薫



空間がつながり家族がつながる住まい

「みんなが集まる場所」と名付けられたリビングダイニングを中心に、台所や和室といった水平方向のつながりだけでなく、吹き抜けを介して2階からロフトまで、垂直方向にも連続した空間で、家族のつながりをより親密にした住まいです。外部からの視線に配慮した中庭コートを取り囲むように部屋を配置することで、プライバシーを確保しながら外部に開いた空間づくりと、どこにいても家族の気配を感じられる、回遊性のある空間を実現しています。



キッチンの床を下げることで目線が合うカウンター空間



2階からロフトまでつなげる吹抜



キッチンへの動線にも配慮した玄関



桜島を眺められる大開口の書斎

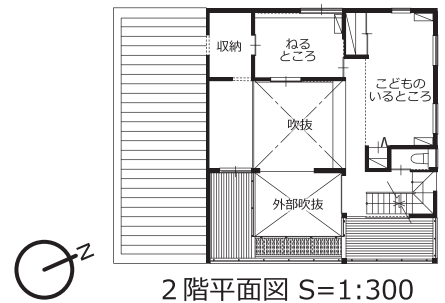
玄関からシューズクローゼットを抜けると、キッチンへと通じる動線になります。家事動線に配慮した機能的な工夫です。動線の工夫だけでなく、どの部屋からもリビングとつながる「視線」の工夫も、全ての部屋に施されており、家のどこにいてもいつも家族を感じられる住まいです。

DATA

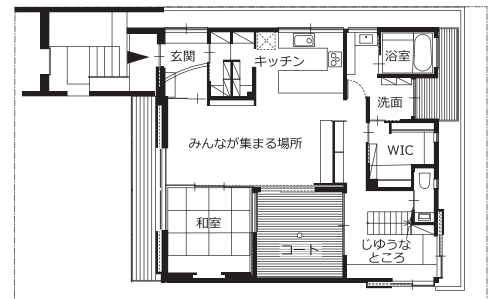
2階建て
 平成27年4月完成
 敷地面積：224.80㎡
 建築面積：109.72㎡
 延床面積：147.39㎡



軒が深く夏の日差しに配慮した外観。
 コンクリートと木材の調和が建物に個性を与えています



2階平面図 S=1:300



1階平面配置図 S=1:300

募集条件への適合状況

かごしま木の家の基準		認証かごしま材の家の基準	
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	○	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	○
	○	(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	○
		(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上	○
		(4) 上記(1)(2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上	○

かごしま 木造住宅 コンテスト 2015

知事賞

上谷口の家

設計 / 株式会社 建築工房匠
施工 / 株式会社 建築工房匠
棟梁 / 雪丸 浩好



会長賞

薩摩川内の家

設計 / アカツキ建築設計(株)
施工 / 有限会社 L-ion
棟梁 / 高橋 誠二



入選

喜入の家

設計 / 株式会社 田川組一級建築士事務所
施工 / 株式会社 田川組
棟梁 / 小正 孝治



入選

吉野里山山荘

設計 / ヤマサハウス 株式会社
施工 / ヤマサハウス 株式会社
棟梁 / 隈元 義一



入選

始良の家

設計 / 有限会社 ゆうあいプラン
施工 / 住まいる 玄
棟梁 / 鶴本 正太



入選

吉野の家

設計 / ヤマサハウス 株式会社
施工 / ヤマサハウス 株式会社
棟梁 / 脇元 一盛



入選

吹き抜けとコート囲む 回遊性のあるお家

設計 / 株式会社 ベルハウジング
施工 / 株式会社 ベルハウジング
棟梁 / 迫 薫



事務局 / 鹿児島市新屋敷 16 番 228 号
(公財) 鹿児島県住宅・建築総合センター内
TEL : 099-224-4543

ink

R100